

施策番号	1902		
施策名	学びが社会に還元されるしくみづくり		
概要	ひとりひとりが学び続けることにより地域や社会の課題を認識し、課題解決に主体的に取り組むまちづくりを進めるとともに、地域活動の活性化につなげる。		
担当局・部室	教育委員会・生涯学習部	共管局・部室	
上位政策	19 生涯学習		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 30年度	令和 元年度	令和2年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	博物館ふれあいボランティア等活動回数 (回)	a	a	10,327	9,710	7,000	138.7%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
客観指標総合評価		a	a					a	

2 市民生活実感評価

設問		平成 30年度	令和元年度							令和 2年度 ※
			評価	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	
1	生涯にわたって自ら学習したことが、 仕事や社会活動に役立っている。	c	c	42 6.8%	157 25.4%	303 49.0%	81 13.1%	35 5.7%	618	-
2	地域での取組において、幅広い世代が ともに学べる機会が充実している。	c	c	43 7.0%	204 33.0%	267 43.2%	66 10.7%	38 6.1%	618	-
3	-	-	-							-
4	-	-	-							-
5	-	-	-							-
市民生活実感調査総合評価		c	c							-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	B	令和元	B	令和2	B	施策の目的がかなり達成されている
重み付け	☒ 客観指標	本施策に係る事業については、市民ひとりひとりの学びと取組が、直ちに社会に還元される仕組みになっていると、多くの市民が実感することは困難であるため、客観指標を重視する。				
	☐ 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

- ・「生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている」との実感がc評価で推移していることについては、市民一人一人の「学び」が、それぞれの仕事や社会活動に生かされる「機会」そのものが少ないことや、実際には何らかの形で学びと仕事や社会活動が繋がっていても、それを実感するに至っていないことが考えられる。
- ・幅広い世代がともに学べる機会の充実については、地域の各種団体や学校運営協議会、PTAなどが連携し、住民の相互交流を深めるためのイベント等、地域に根ざした取組を推進しているが、参加者数が十分でないため、学習する機会が十分あるという実感までは得られていないと考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・ボランティア活動の更なる機会拡充を図り、学びの成果を十分に発揮して生きがいや充実感を得られる活動となるよう、引き続き、京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」と連携しながら、ボランティア養成講座を実施するとともに、加盟館に対して、ボランティアの継続的な周知・活用依頼に努める。

・豊かな学びの場・機会・人材のネットワークづくりを進め、地域に根差した生涯学習活動の活性化を図る。また、市民の多様な学習活動を支援し、あらゆる世代の方が自ら楽しんで学び、生涯を通して学び続けられる環境づくりに取り組むとともに、その学びの成果をまちづくり、地域、子どもたちの学びと育ちに活かすことができる京都ならではの生涯学習のまちづくりを今後も推進する。

・地域の各種団体や学校運営協議会、PTAなどが連携した地域コミュニティづくりを推進し、子どもからお年寄りまで、幅広い世代の住民の相互交流を深めるための催し等、地域に根ざした取組を支援する。

施策名	1902	学びが社会に還元されるしくみづくり				
指標名	博物館ふれあいボランティア等活動回数（回）					
担当課	生涯学習部生涯学習推進担当		連絡先	2 5 1－0 4 1 0		
1 指標の説明						
「博物館ふれあいボランティア」「情報モラル市民インストラクター」「親支援プログラム支援者」の活動回数						
2 指標の意味						
自らの学びを京都のまちや地域に活かしている市民の増加状況を示す指標			3 算出方法・出典等			
			出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	10,327	9,710	617回減	7,000	中長期目標値（令和2年度）の数値目標達成のために当年度に達成すべき数値	138.7%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-	7,000	令和2年度	138.7%	平成22年度実施回数（5,644回）の約2割増	
5 評価基準						
最新数値の目標値に対する達成度が a：100%以上 b：80%以上～100%未満 c：60%以上～80%未満 d：40%以上～60%未満 e：40%未満			6 基準説明			
			100%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。			
7 評価結果						
平成30	令和元	令和2				
a	a	a				